

知ろう 学ぼう 私たちの文化（室町文化体験学習）

福山市立駅家西小学校

1 活動概要

21世紀の地球時代を生き「輝きのある未来」にするための教育として、全学年でESD（持続発展教育）を推進している。本校では、4年前から、全学年がESD関連カレンダー（各教科等の指導内容をESDの視点で関連付けた年間指導計画）を作成しており、現在はそのカレンダーを基に各学年が3つの領域（環境教育・多文化国際理解教育・人権平和教育）で、系統的に学ぶことができるようカリキュラムを工夫して取組を進めている。

このことにより、児童に持続可能で希望のある未来社会の担い手となるための資質・能力（行動力と実践力）を育むことをねらいとしている。

2 本実践事例について

（1）本事例実施の背景・これまでの取組

世界には多種多様な文化があり、いずれの文化もその土地の気候、風土、習慣、言語、宗教などに適した形で発展してきている。それぞれ固有の文化の価値を認めるとともに、地域の歴史や文化を学び、今の生活に根付いている室町文化を体験することで、伝統文化継承の意義や日本文化の価値を理解し、それが多文化理解・国際理解の基盤を形作ると考える。

室町文化体験学習では、例年「茶の湯」「琴」「水墨画」「狂言」を学習してきたが、ここ2年間は「能」「茶の湯」「琴」の学習をしてきている。6年生になるまでに、子ども達は、4・5年生でお茶の接待や音楽の授業で琴の学習をしてきている。従って6年生になると「室町文化を体験できる」という期待をもって、この学習をスタートする。このように、室町文化体験学習が下の学年や次の学年の学び、日々の生活につながり広がるよう、系統的で継続した学びを形作るよう努めてきている。

（2）指導のポイント

☆ 室町文化の体験・国語科・社会科・道徳の学習の関連を図り、長い歴史の中で、今の自分達の学習や生活のもとになっている文化が作り出され、受け継がれているすばらしさに気付かせるとともに、一人一人がその文化の伝承者であることを自覚させる。

（付けたい力1）

☆ それぞれの文化の特徴や良さ・違いなどについて、調べ活動・文化体験交流・発表会・卒論作成を通して、自分の考えを持ち表現する力を付けさせる。友だちの発表から自分の生き方を振り返る場とする。（付けたい力1、2）

☆ 相手意識・目的意識を明確に持ち、指導を受けるボランティアの方や発表の場で接する人たちへのよりよい対応力やその場に応じた作法、コミュニケーションの取り方を身に付けさせる。（付けたい力2）

☆ 体験した室町文化の中で身に付けたいと考えたものを、日常生活の中で積極的に活かすための具体的な工夫を考えさせる。（付けたい力3）

3 学習指導案

◎本時の授業…これまで継続してきた室町文化体験を振り返り、室町文化がなぜ今まで継承されてきたのかを考えることで、日本の伝統的文化・日本独自の価値観・風俗習慣などの認識を深め、共感を持ち、それらを伝承していこうとする態度や文化をより一層豊かにする実践力を育てる。

(1) 本時のねらい

室町文化体験から、そのよさは何であるかを考え、伝えていけるもの、生かせるものは何かを考える。

(2) 対象学年 第6学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	1. 本時の学習を把握する。 目標である室町文化体験発表会のイメージを持たせる。 2. 課題設定をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">室町文化発表会で何を伝えるかを明らかにする。</div>	・さらに、イメージの明確化を図るための話し合いが必要なことに気付かせ、課題設定をする。	
自力解決	3. よさや伝えてきた人の思いを考える。 ・作法を守ってお茶を点てたい。わけは、人をまねいたときの「おもてなしの心」を伝えたいから。 ・みんなと心を合わせて琴をひきたい。わけは、日本の文化のよさを味わってもらいたいから。 ・姿勢良く謡をうたいたい。わけは、見ている人も気持ちがしゃんとするから。 4. 自分の考えを隣の人に伝える。	・ノートに自分の考えに理由をつけて書かせる。 ・座席表で見取り、集団解決の見通しを立てる。 ・ペアトークで相手に伝えさせる。	○自分が体験した活動を振り返り、ノートに考えが書けている。
集団解決	5. 発表会で何を伝えるか話し合う。 ・600年以上にわたって伝わってきた文化を自分達も守り、ぜひ伝えていきたい。 ・日本文化独自の相手を思いやる心は、これからもとても大切に伝えるべきことだ。私たちも思いやりの心を持ち発表会をしたい。 ・私達もりんとした姿勢や気持ちを大切に発表会をしたい。	・伝統文化のよさや伝えてきた人の思いを入れながら、伝えたいことを話し合わせる。 ・自分たちが体験したことを伝える意味・意義を考えさせる。	○自分の考えを、根拠を持って話すことができる。
まとめ	6. 発表会で伝えたいことを一言でまとめる。 ・謡の声に気持ちを込めるため、しっかり声を出す。 ・伝統文化のよさを伝える。	・めあてを達成させるために自分ができることを考えさせる。	

4 児童の反応（授業後の感想等）



私は、舞うことに大切なのは「姿勢を保つこととみんなの心をそろえる」ことだと思いました。これからどんどん学んでいきたいです。



茶の湯の学習を通して、一番大切にしないといけないことが「誠意をもってもてなす心」であることが分かりました。これは、お茶をしている時だけでなく、普段からも使えることなので、相手を思いやり、誠意をもって行動することが大切だと思いました。

未来の担い手を育てる環境教育

福山市立内海小学校

1 活動概要

本校では、エネルギー・環境問題は我々の生活から切り離すことのできない大切なテーマであると考え、エネルギー・環境教育を基軸としたE S Dを推進している。次世代を担う児童に「限りある資源を有効に使うために責任ある選択と行動ができる資質や能力を養う」ことをめざして取り組んでいる。

児童にとって身近な環境である「海」を学びの場とし、低学年では「身近な自然を楽しみ、自然のよさに気付く」、中学年では「身近な自然や環境を守るための方法や取組について考える」高学年では「身近な生活や環境から解決すべき課題について自分たちにできることを考える」活動をしている。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、平成19年度より環境グローブ活動として、5年生が毎日、定時・定点気象観測を行っている。児童は、これまで蓄積したデータをグラフ化し経年比較することで、平均気温や海面温度が上昇していること、月別平均最高気温・最低気温の差が開いていることなどに気付いた。このことから、自分たちの住んでいる地域でも温暖化が進んでいるのではないかと、環境や人々の生活にも影響があるのではないかと、そして、今の環境を未来へ残すために自分たちに何ができるか考えてきた。また、児童は、身近な環境の変化について調べる中で、獲れる魚の種類が変わったり、漁獲量が減ったりしていることにも気付いた。しかし、その原因は温暖化によるものだけではなく、ごみのポイ捨てや山林の荒廃による藻場の減少、漁法の変化による獲り過ぎなどにもあることが分かった。

大好きな内海の環境を守るために、地球温暖化の原因であるCO₂削減や環境保全について自分たちにできることを考え、実践し、地域への情報発信も行っている。

(2) 指導のポイント

- ☆ 気象観測データをグラフや表にして比較することで、環境の変化や温暖化の兆候をとらえさせる。データと体験したことを結び付けて考えさせる活動を通して、情報収集・分析能力・論理的思考力を育てる。(付けたい力1)
- ☆ 環境や生き物への影響について、調査・体験とこれまでに学習した内容を関連させて考え、温暖化による変化だけではなく、ごみによる環境悪化や魚の獲り過ぎなど、原因や変化を多面的に考えさせ、生活や産業活動とのつながりをとらえさせる。(付けたい力1, 2)
- ☆ 内海の自然環境(海)を未来に残していくために、自分たちにできることや地域でできることを考え、実践したり呼びかけたりさせる。(付けたい力3)
- ☆ 体験活動と探究の過程(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を大切に¹する。整理・分析、まとめ・表現する活動では、各教科・領域で学んだことを活用させる。

3 学習指導案

◎本時の授業 … 身近な環境について調べたことをもとに、環境の変化はいくつもの要因が重なって起きていることに気付かせ、地域環境を守るために、今、自分たちができることを考えさせる実践である。

(1) 本時のねらい

地域環境の変化はさまざまな要因によって起きていることが分かる。

(2) 対象学年 第5学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	1. 本時のめあてを確かめる。 環境の変化について調べたことをもとに、その原因を考えよう。	・追究課題を確認させる。	
自力解決	2. 環境の変化について調べたことをもとに、その原因を考える。 ・魚の種類の変化→温暖化 ・漁獲量の減少→ごみ、藻場 獲り過ぎ ・外来種の魚(南の海に住む魚) →温暖化、外国船の寄港 ・海苔の減産→温暖化、水質の変化	・環境の変化について根拠(体験、話、数値など)をはっきりさせる。	
集団解決	3. 環境の変化の原因を話し合う。 ・温暖化(海水温の上昇) ・海に捨てられるごみ ・稚魚が育つ場所の減少 ・獲り過ぎ ・外来種 ・水質の悪化	・原因をカードに書いて貼り出し、分類・整理させる。 ・多面的に考えさせ、さまざまな原因をつなげて考えさせる。	○地域の環境変化は様々な要因で起きていることが分かる。
まとめ	4. できることを考える。(解決の見通し) ・温暖化防止のための活動 ・家庭から出るCO ₂ の削減 ・ごみ削減の取組み 5. 学習を振り返る。	・課題解決のために何をすればいいか、どんなことを調べていくのかを考えさせ、今後の調査活動の見通しを持たせる。 ・自己の伸びや友だちのよさを振り返らせる。	

4 児童の反応(授業後の感想等)

内海の特産品であるのりの生産量が減っていることや内海の海でも南の海に住む魚が見られるようになったことなど環境問題の深刻さが分かった。環境の変化の原因には、さまざまなものがあるが、自分達にできることをしなければならぬと思う。未来の内海が心配だ。

学習したことで小さなことが大切だと思うようになった。テレビを見る時間を減らすこと、使わない部屋の照明を消すこと、水を止めながら手を洗うこと、バケツの水で雑巾を洗うことなど、自分たちができることは小さなことだけれど、みんなでやることでいつかは環境をよくできると思う。できるときに、できることを。

